

NICOGRAPH 論文サンプル (LaTeX 版)

芸術太郎¹⁾(学生会員) 科学次郎²⁾(正会員)

1) 芸術科学大学大学院芸術科学研究科 2) 芸術科学大学芸術科学部

A Sample for the Paper of the NICOGRAPH

Taro Geijutsu¹⁾ Jiro Kagaku²⁾

1) Graduate School of Art and Science, The University for Art and Science

2) Department of Art and Science, The University for Art and Science

{taro, jiro} @ art-science.ac.jp

概要

本稿は、NICOGRAPH 論文投稿用の LaTeX 版サンプルを提供するものである。

1 はじめに

本稿は、NICOGRAPH の投稿用の LaTeX サンプルを提供するものである。このサンプルは芸術科学会論文誌のサンプルとの整合性を重要視して作成されたものである。

- 論文題名（原則として、和文・英文の両方）
- 著者名（原則として、和文・英文の両方）
- 著者所属名（原則として、和文・英文の両方）
- 著者連絡先（電子メールアドレス）
- アブストラクト（原則として、和文・英文の片方）

2 投稿論文の書式

2.1 ページ設定およびページ数

論文本体のページ設定は、A4 とする。このページ設定で不都合なコンテンツがある場合は、静止画であっても論文本体に含めずに添付ファイルで提出していただきたい。

論文本体のページ数は、各会議で規定される通りとする。

続いて本文以降、以下の内容を記述のこと。本文の書式は、原則として 2 段組とする。

- 本文（原則として、和文または英文）
- 参考文献（本文と同一の言語で）
- 図表（本文と同一の言語で）

なお NICOGRAPH では、いわゆるダブルブラインドレビュー（査読者に対して著者情報を伏せた形式での査読）を採用していない。そのため、査読原稿にあって、著者名、著者所属名は省略しないこと。

2.2 論文の構成

論文本体には、まず冒頭に以下の内容を記述すること。本 LaTeX ファイルの冒頭部分を参照のこと。

3 本文執筆上の注意

3.1 ヘッダーとフッター

本ファイルの冒頭部には、ヘッダーとフッターの設定が合計 3 箇所ある。この部分は採録論文の最終原稿提出時に、NICOGRAPH 委員会が編集するものであるため、著者はこの部分を自分で編集する必要はない。

ただし、NICOGRAPH 委員会の作業環境にて LaTeX のコンパイルが成立しない、などのやむを得ない状況が発生した場合に限り、著者にヘッダーとフッターの編集を依頼することがある。

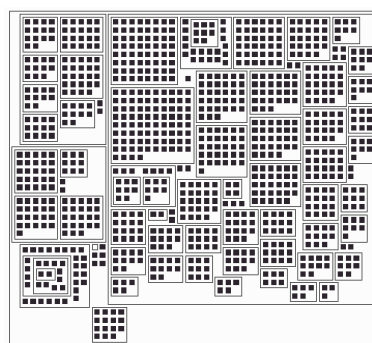


図 1: 図の挿入例。

3.2 章

本文は、適当な長さで章に分けて記述すること。すべての章に、章題名および章番号をつけること。ただし、謝辞および参考文献には章番号をつけなくてもよい。LaTeX で論文を執筆する場合には、`section` や `subsection` を用いて、適切な長さで文章を分けること。章番号が付加されない `section*` や `subsection*` などの利用は、原則として推奨しない。

3.3 図表

図や表を論文本体に掲載する場合には、すべての図表を本文から引用し、適切な位置（引用された文章に近い位置）に表示すること。すべての図表には通し番号および題名をつけること。

LaTeX で論文を執筆する場合には、図を EPS ファイルとして用意し、一例として `figure` 環境中にて `includegraphics` を用いて本文中に挿入する。図には必ず `label` を付加し、本文から `label` を用いて参照する。本サンプルの場合には、「図 1 参照」というように記載すれば、適切に `label` から図番号を設定してくれるはずである。

表についても同様に、`label` を付加し、本文から `label` を用いて参照する。一例として、以下の表 1 をご参照いただきたい。

表 1: 表の挿入例。

	数学	英語	国語
太郎	68	91	34
次郎	53	12	97

3.4 参考文献

参考文献は本文の後に全部まとめて列挙する。すべての参考文献は本文中で引用する。すべての参考文献には通し番号をつける。

本稿の末尾に、英語論文と日本語論文の参考文献の一例 [1] [2] を示す。原則として、著者名、タイトル、掲載誌（論文の場合には巻と号）、ページ数、発行年を記載すること。著書の場合には、著書を特定する情報（出版社、ISBN など）もできる限り記載すること。なおウェブサイト等を引用する場合には、この限りではない。

4 まとめ

本稿では、NICOGRAPH の投稿用の LaTeX 版サンプルを提供した。本サンプルに不具合が発生した場合には、芸術科学会にご一報をいただくと非常に幸いである。

なお本サンプルの作成に際して、参考文献にも記されている橘らの論文 [2] の LaTeX ファイルを参考にした。

参考文献

- [1] T. Itoh, Y. Yamaguchi, Y. Ikehata, Y. Kajinaga, Hierarchical Data Visualization Using a Fast Rectangle-Packing Algorithm, IEEE Transactions on Visualization and Computer Graphics, Vol. 10, No. 3, pp. 302-313, 2004.
- [2] 橘, 伊藤, 左京と右京:大規模表形式データの可視化の一手法, 芸術科学会論文誌, Vol. 7, No. 2, pp. 22-33, 2008.